



TITLE:

本年十月の日食と月蝕

AUTHOR(S):

CITATION:

本年十月の日食と月蝕. 天界 1930, 10(114): 368-369

ISSUE DATE:

1930-09-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161569>

RIGHT:

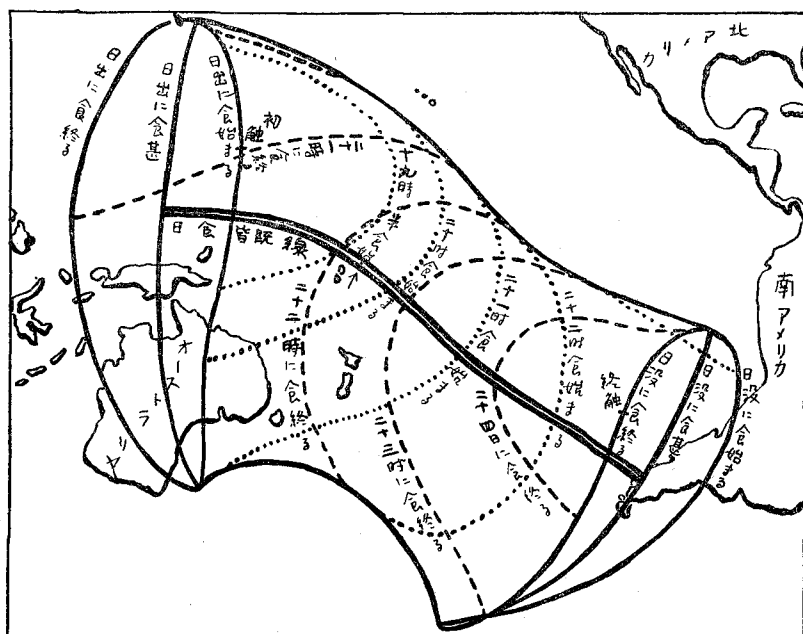
本年十月の日食と月蝕

天文年鑑に據れば、本年十月八日早曉の西天に部分月蝕が見える筈。しかも之れが本年中に日本で見える唯一の月蝕である。時刻は(日本中央標準時)

始まりが	10月8日午前3時46分2
食甚は	同 同 同 4 6分5
終りは	同 同 同 4 27分0

である。しかし食分は僅かに0.029即ち二厘九毛に過ぎないから、肉眼ではとても見られないだらう。

十月二十二日早朝には日食がある。之れが本年の日食の第二回目であるが、第一回の四月二十九日のは、北米で見え、多くは金環食で、只ごく狭い範囲で一秒時ばかりの皆既相が見えたに過ぎなかつた。米國では、場所柄だけに、可なり社會も騒ぎ、學者の觀測も行はれたが、雨や曇りの所も



あつたと報ぜられてゐる。こんどの十月のは、立派な皆既食で、皆既の時間一分五十幾秒にわたるのであるが、あいにく、見える場所が殆んど全く南太平洋の波の上であつて、只僅かにニワフー Niuafu といふ小島だけが観測地として利用し得るに止まる。それでも、棄てゝは置けないので、米國の海軍天文臺などからは、夏の始め、既に観測隊が此の島へ向け出發した。又、濠洲ニウジーランドの天文家も観測に出かける筈だといふことを聞いた。ニワフー島は英領で、

西經 $175^{\circ} 33'$ 南緯 $15^{\circ} 33'$

の位置にあり、皆既日食の長さは1分38秒ぐらゐる、其の時刻は、

其地の地方時で、 十月二十一日午前9時9分

日本の中央標準時では、日 二十二日午前5時51分である

ちなみに、此の日食の部分食は濠洲から南米西岸までにわたる 南太平洋一圓で見え、尙ほ、南極でも、又我が國委任統治のカロリン群島あたりでも見える。(附圖を見られよ)

同好會十人名物男

O K 生

創立滿十年の紀念として下の十人を選びました。御賛成願ひます。(ABC順)

- | | |
|------------|----------------------------|
| 五 藤 齊 三氏 | 望遠鏡で金をもうけ、同好會に献身する人。東京支部長 |
| 池 田 政 晴氏 | 太陽觀測で眼を焼き、同好會の財布の主となる、植物學者 |
| 改 發 香 鳴氏 | 實業家から哲學者となり、天文寫眞界の重鎮となる |
| 古 賀 和 吉氏 | 同好會の九州探題、星圖の主、三味線の名手。 |
| 見 元 了氏 | 天體觀望の最適地臺灣を我物顔の天文家、南十字の番人 |
| 三 澤 勝 衛氏 | 太陽黑點の主、東洋のヲルフ・ヲルフア・多忙そのもの |
| 水 野 千 里氏 | 岡山天文王、北斗の示導者、天文圖書館長 |
| 中 村 要氏 | 觀測の大家主、反射鏡の主、日本の寶 |
| 西 岡 永 太 郎氏 | 滿洲天文王兼天文狂 |

以 上